# 東京水交社建築概要

昭和九年五月一日から、東京市芝區榮町13番地に3,688坪餘の敷地を割して建築中であつた東京水交社が、去四月三十日に竣功して五月六日盛大な落成式を擧げた。水交社は陸軍の偕行社と同樣、海軍士官の社交機關である。建築概要は次の通りで、建物は本館と附屬建物の二棟になつてゐる。

## 本　館

**坪　數**　建坪428坪36で地階付3階建、延1,402坪29.各階坪數は次の如し。

地階　308坪62　1階　42 坪36

2階　389坪78　3階　271坪26

屋階　4坪27。

**軒　高**　上層地盤上より測定して

本館表玄關部に於て　45尺7寸

本館講堂部に於て　49尺9寸

本館最高部　於て　57尺6寸。

**構　造**　鐵骨鐵筋コンクリート造。

**室配置**　各階に於ける室の配室は下の如し。

〔地階〕　物品配給所、調理室、食器洗場、給仕宿直室、使用人更衣室、事務員食堂、賄人食堂兼宿直室、洗濯堂、洗濯物仕上室、浴室手洗所、配電室、汽罐室、冷房機械室、食器庫、食糧品庫、階段室、物置等。

〔1階〕主玄關、廣間、外套預室、社交室、談話室、圖書新聞閲覽室、休憩室、應接室、電話室、脇玄關、事務室、書庫、役員室、社監室、豫備室、事務員宿直室　婦人更衣室、電話交換室、手洗所、倉庫、階段室、其他。

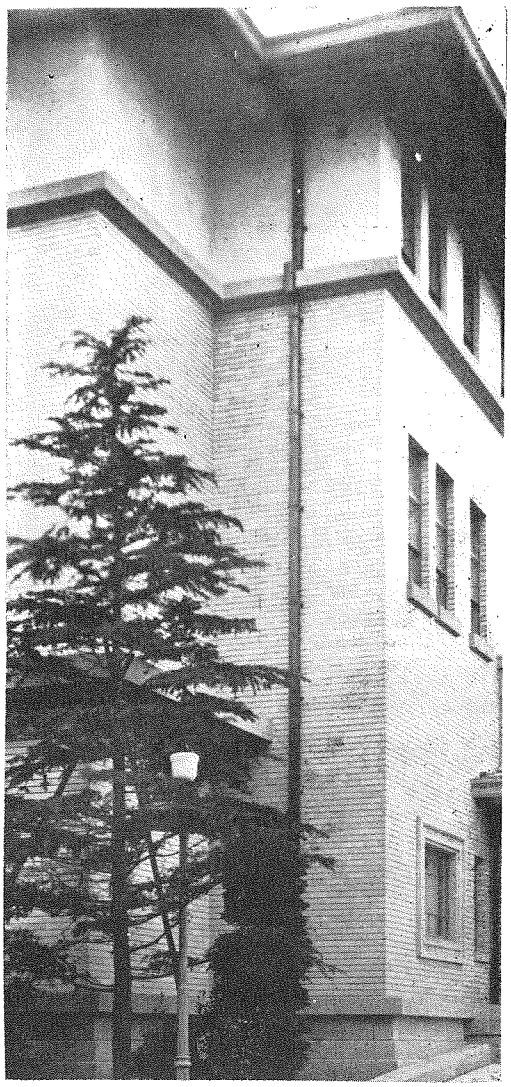
〔2階〕　貴賓室、貴賓洗面所、休憩室、小食堂、大中食堂(假仕切を取外せば講堂となる樣な構造)控室、配膳室、手洗所、階段室。

〔3階〕　宿泊室、食堂、給仕室、浴室、手洗所、階段。

〔屋階〕　昇降機リフト機械室。

**外部仕上**　腰は靜岡縣產軟石張にして1階窓臺より上部はタイル張、各笠石及軒先等は人造擬石塗、各外部窓は上げ下げ窓エヤータイト式とし、地下室窓は出窓とす。屋根は2寸勾配の瓦棒型塗屋根。

**內部仕上**　主要室の仕上げは次の如し。



〔玄關〕　床は花崗石水磨き仕上げ、壁軟石張。

〔展間〕　床トラバーチン張、壁軟石張及タイル張。

〔社交室〕　床タイル張、壁トラバーチン張天井石膏張とす。

〔談話室〕　床は寄木張、壁はチーク材パネル壁、天井石膏張にして軟石製煖爐を設く。

〔圖書新聞閲覧室〕　床寄木張、壁はコルク卷コンビネーション仕上げとす。

〔1階休憩室〕　床フローリングブロック張。壁及天井木部混用ラフコート仕上げ。

〔貴賓室〕　床は寄木張、壁チーク材パネル張、天井石膏張、白色大理石製煖爐を置く。

〔貴賓室洗面所〕　床及壁は大理石張、天井プラスター壁ペンキ拭ひ仕上げ。

〔貴賓室廊下〕　床大理石、壁は高雅なるラフコート仕上げ。天井プラスター及石膏ペンキ拭ひ仕上げ。

〔2階休憩室〕　床寄木張、壁ウォールペーパー張、天井プラスター塗ペンキ仕上げ。

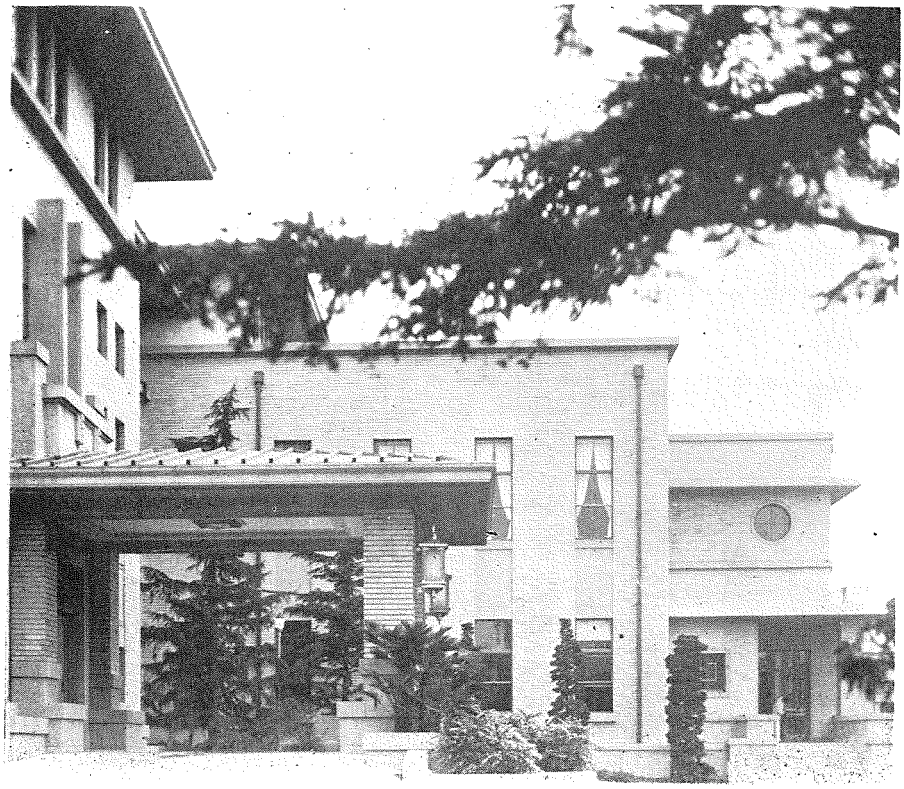
〔小食堂〕　床寄木張、壁横羽目張天井ラフコート仕上げ。

〔大中食堂兼講堂〕　床フローリングブロック張　壁布張ペンキ拭ひ仕上げ、天井トマテックス張ペンキ塗仕上げとす。大中食堂の間仕切は取外し自在とし、全部取外しを爲す時は大中食堂一室となり、大食堂又は講堂として使用し得る構造なり。

〔宿泊室〕　床フローリングブロック張、壁ウォールペーパー張、各室に洗面所を設け、内3室は浴室附とす。

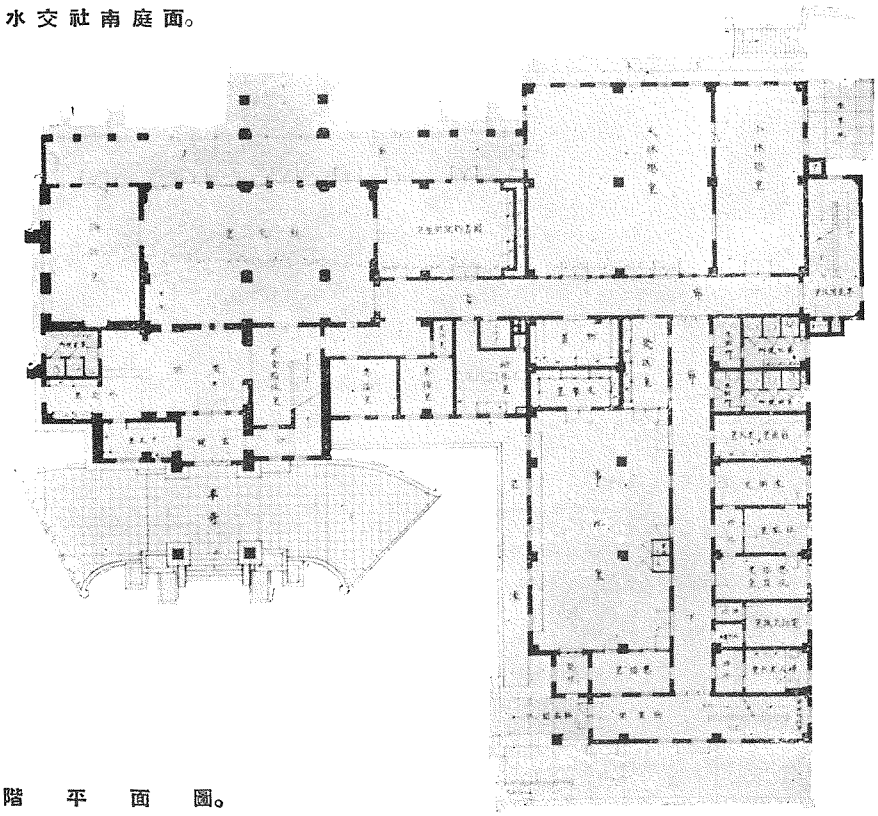
〔3階食堂〕　床フローリング張、壁ウオールペーパー張とす。

**其他仕上**　以上の外、各階に露臺を設けテーブル椅子等を設備す。又各階共適當なる位置に防火シャッターを設置し、外部各出入口及防火區割に於ける扉は鐵製防火戸を附

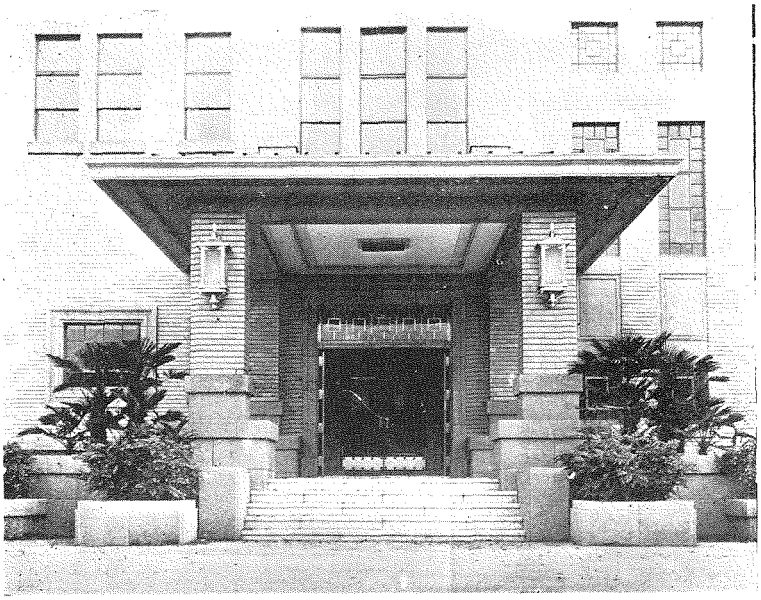


1. 新築なれる東京水交社正面。

2.東京水交社南庭面。

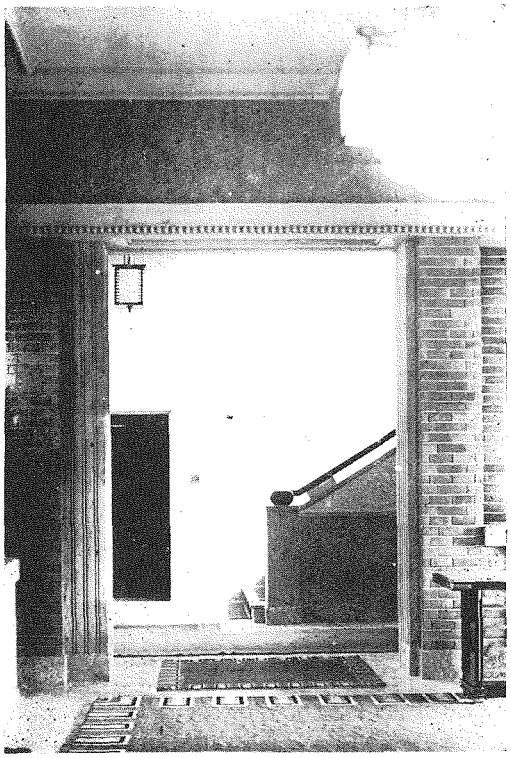


3.一　階　平　面　圖。



4. 大玄關正面。

5. 正面ホールより階段室を見る。



す。其他建具は主としてスチール製、

**工事工程**　起工は昭和九年五月一日にして、同年六月二十一日定礎式を擧行、八月十二日上棟式。昭和十年四月三十日竣工す。

**工事關係者**

| | |
|---|---|
| 工事設計監督 | 池田忠治氏 |
| 現場主任 | 直田六三氏 |
| 請負施工 | 旗手組 |

## 附帶設備の大要

**昇降機**　本館中央部に於て地階より3階に至る自動押ボタン式昇降機を設置す。本機は積載重量500瓩、速度毎分36米なり。

又地階調理室より各階配膳置に至る自動押ボタン式リフトを設置す。本機は積載重量45瓩、速度毎分36米なり。

**電氣設備**　〔電灯電力〕　東京市電氣局より地下電纜により普通高壓電力の供給を受け、之を地階變電室に於て、電灯用變壓器容量25キロ3臺及動力用變壓器容量20キロ3臺を以て低壓に變電し、主として金屬管陰蔽工事により配線したる下記電灯動力に配電す。

電灯　本館923灯、其他261灯（但し既設の別館を含む）計1,184灯。

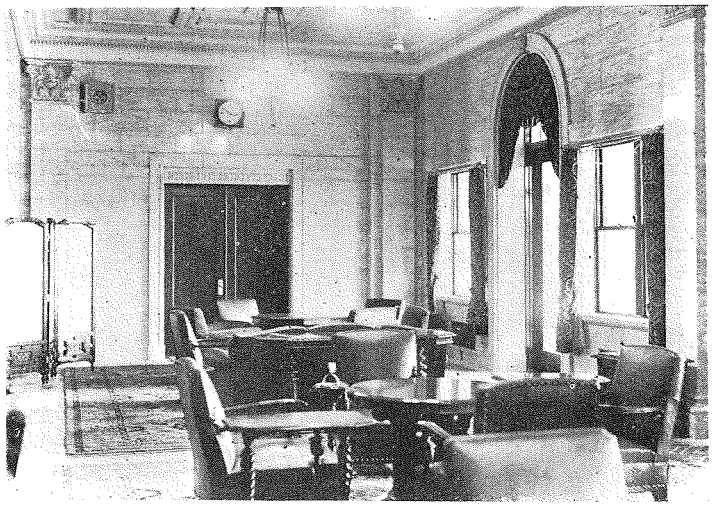
接續座　本館94個、其他38個（但し既設別館を含む）計132個。

天井電氣扇　13個。

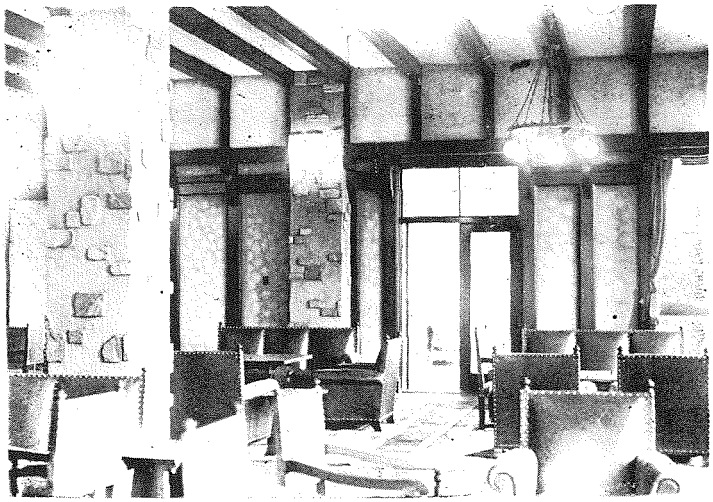
動力　19臺、73.25馬力。

6. 一階廊下。

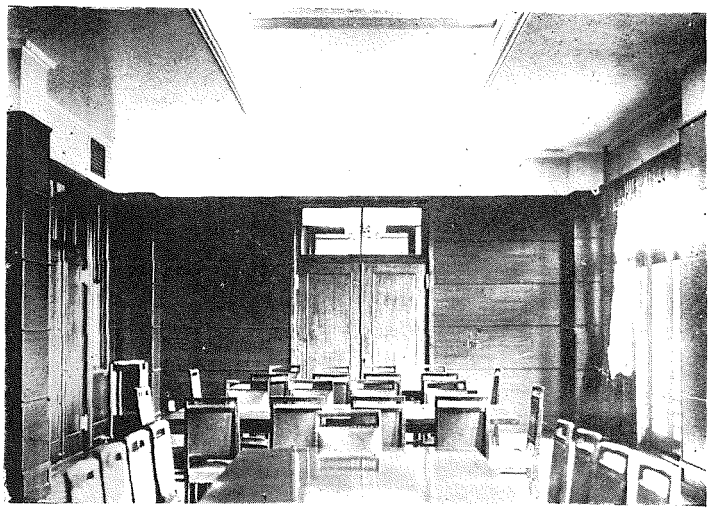
7. 談話室(一階)



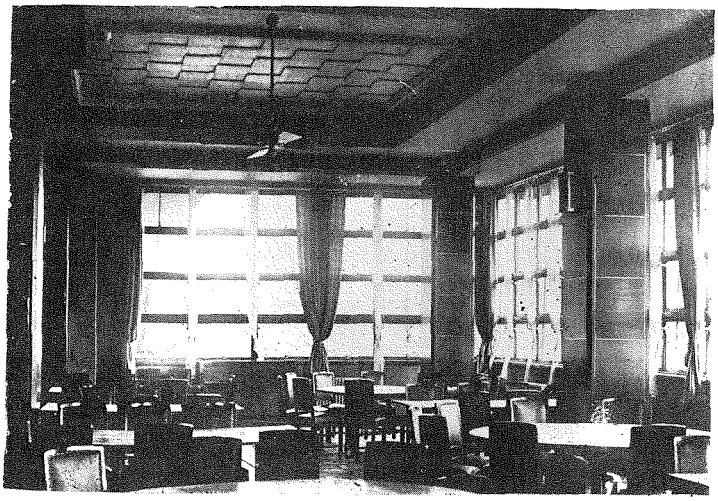
8. 社交室の一部
(一階)



9. 大休憩室(一階)



10. 小食堂(2階)



11. 中食堂(2階)

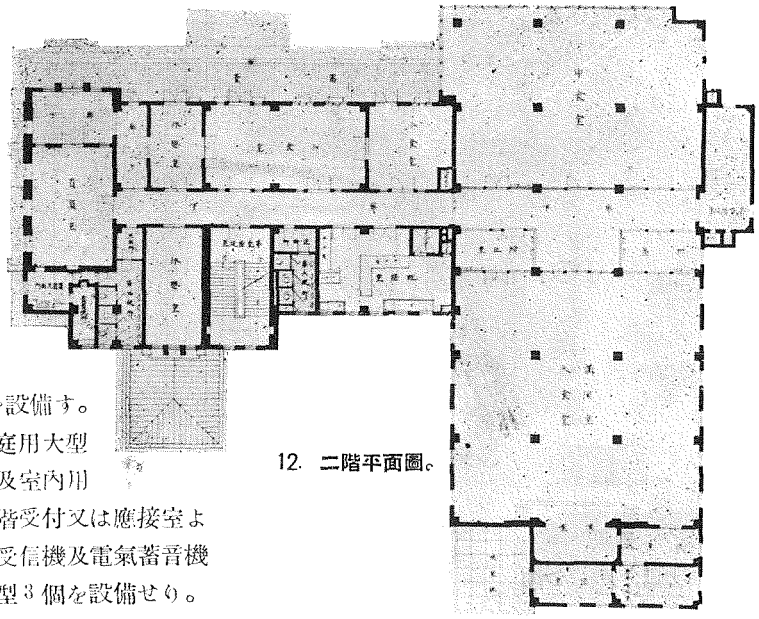
**電氣時計**〕同期電氣時計補助發條付28個を設備し、其電源800ヴォルトとし時計專用回線により配電す。

〔**電話**〕 局線は地中電纜により引込み、交換機は自動式局線容量10回線共電式、私線容量60回線とし卓上電話機35個、壁掛電話機22個を設備す。

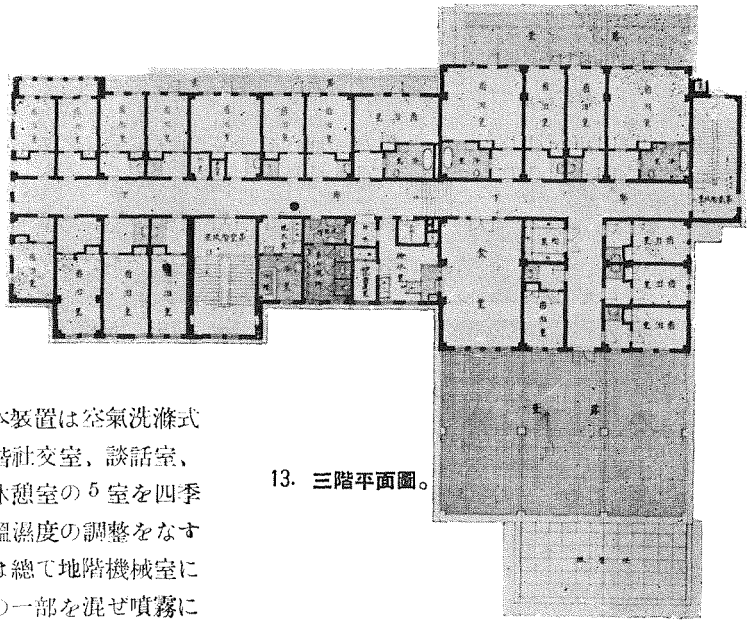
〔**擴聲器**〕 擴聲器は前庭用大型1個、後庭用大型1個及室內用小型16個を設備し、1階受付又は應接室より送話す。尙別に放送受信機及電氣蓄音機よりの放聲用として小型3個を設備せり。

〔**非常報知機**〕 本館各階及別館に各 個計5個の發信機を設備し、1階宿直室に受信機を設置して非常報知信號を受信し、同時に自動的に警視廳消防部及關係消防署に信號を送る機構とす。

〔**電鈴**〕 各階給仕室に電鈴及表示器を設けて各室必要なる個所に計52個の押釦を備ふ。



12. 二階平面圖。

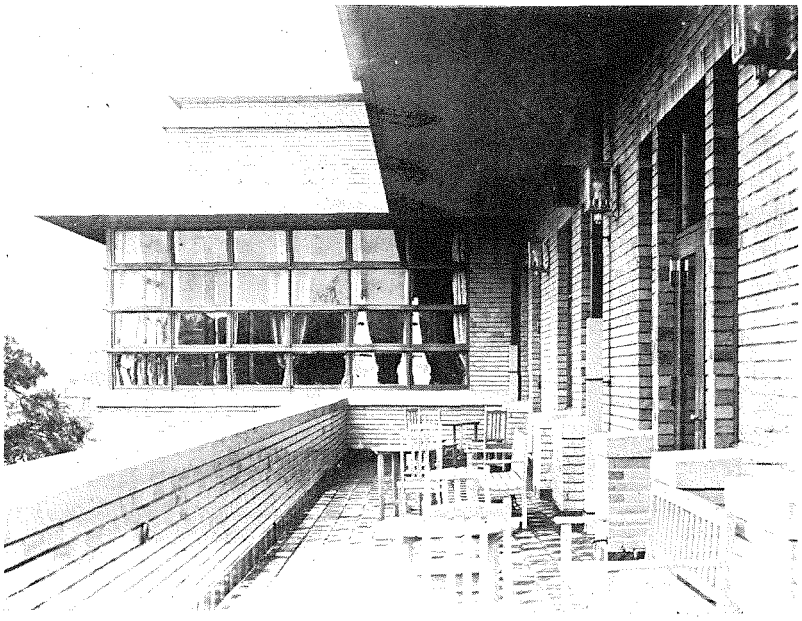


13. 三階平面圖。

**冷煖房・給氣・給湯・排氣裝置**

〔**冷房並間接煖房裝置**〕 本裝置は空氣洗滌式溫濕調整法により、1階社交室、談話室、2階小食堂、大食堂、休憩室の5室を四季を通じて常に適當なる溫濕度の調整をなすものにして、調整裝置は總て地階機械室にて之を行ひ外氣に空氣の一部を混ぜ噴霧により洗滌除塵し、且つ減濕冷却加熱作用を完全に行ひ、送風機により各室に送風して溫濕度を調整す。

〔**直接煖房並に給汽裝置**〕 本裝置は低壓蒸汽煖房裝置と給汽裝置とを兼ねたるものにして、汽罐室に鑄鐵製組合罐3基を設置し之より發生する低壓蒸汽を各室に設置したる放熱器に通じて直接煖房を行ひ、又乾燥室浴槽及南京蟲驅除裝置へ給汽する。燃料は



14. 二階露臺より中食堂を見る。

自動式送炭機により粉炭を汽罐に送るものとす。

〔給湯裝置〕汽罐室にA. B. 2個の貯湯槽を設けAは强制循還に依り華氏150度の湯を浴室洗面所、酒場等に給湯し、Bは自然循還に依り華氏150度以上の湯を調理室及配膳室に供給するものとす。

〔換氣裝置〕調理室の汚濁せる空氣を天蓋を通じて排風機により屋外に排出す。

**給水消火設備**　市水道より主管3吋を分岐し地階機關室内に設置せる3馬力の多段タービンポンプにて屋上の市水貯水槽に揚水し之より貴賓便所、各洗面所、浴室、調理室及び給湯槽等に給水す。汽罐用及び別館事務室並に住宅用には上記主管より別個の量水器を經て給水す。

別に8吋鑿井より7.5馬力ボアホール喞筒にて沈砂槽に揚水し、之より更に5馬力の多段タービンポンプを以て屋上井水貯水槽に揚水し各便所洗滌、手洗、噴水、撒水、靴洗ひ及冷房の用に供す。

消火栓は各階に2個所宛配置し、井水を供給するものとす。

**排水・衛生設備**　便所は水洗式にして大便器は和風及洋風腰掛式を併用し、小便器はストールにして各手洗器、洗面器、洗し等よりの排水と共に構内下水本管に取纒め、市下水に放流す。

尙3階宿泊室に洋式浴室を設く。

**其他設備**　地階調理室に冷藏庫、アイスクリーム製造機及料理用ストーブを、洗濯室には自動洗濯機を、2階配膳室には自動皿洗機及インテリヤを設置す。

## 附屬建物概要

本館に隣接して建築す。一部2階建一部3階建とし、3階部に財團法人海軍有終會事務所を置き、2階建部の階下を水交社倉庫、階上を同社宅とす。而して有終會事務所は延坪69坪93、水交社倉庫18坪41、同社宅62坪68、總延坪181坪8なり。

構造は鐵筋コンクリート造、社宅内部は和式とし4世帶分に區劃す。

昭和九年十月十六日起工、昭和十年四月三十日竣功せるものにして、關係者は本館同斷なり。